

あわじ環境未来島副読本

みらい





はじめに



兵庫県淡路市長

安倍 茂

わたしたちの住む淡路島は、「国生みの島」^{みけつくに}「御食国」^{きょうみ}とも呼ばれ、興味深い歴史や豊かな自然環境・たくさんのおいしい食べものなど様々な地域資源に恵まれています。このたび小学生のみなさんが淡路島の良さを知ることによって、ふるさと淡路島を誇りに思い、更にみなさんがこれからもくらししていく淡路島の将来について考えるきっかけとなるよう、「淡路ふるさと学習副読本-ふるさと淡路島-」と「あわじ環境未来島副読本-みらい-」を作成しました。

「あわじ環境未来島副読本-みらい-」では、淡路島で取り組みが進められている「あわじ環境未来島構想」について学んでいただきます。この構想は、島の良さを活かして、自然にやさしく、すこやかにくらし続けられる地域をつくる取り組みです。

この副読本を通じて、島内で行われている様々な取り組みについて知り、自分たちの住む淡路島の将来をみなさん一緒に考えていきましょう。

最後に、この副読本の作成にご尽力いただきました関係者のみなさまに感謝申し上げます。



キャラクター紹介 しょうかい

この副読本でみなさんを案内してくれる「たまねぎくん」と「おにおんちゃん」です。淡路島の特産品「たまねぎ」の妖精 ようせい です。みなさんと一緒に「あわじ環境未来島構想」を学んでいきます。

今、淡路島ではどんなことが行われているのでしょうか。「たまねぎくん」「おにおんちゃん」と一緒に見ていきましょう。



たまねぎくん

淡路島では、色々な取り組みが行われているよ。

わたしたちと一緒に考えていきましょう。



おにおんちゃん

目次

はじめに 兵庫県淡路県民局長

1	あわじ環境未来島ってどんな島?	
	(1) わたしたちの住む淡路島 1
	(2) 自然にやさしく、すこやかに暮らし続けられる淡路島をめざして 1
2	再生可能エネルギーの島	
	(1) 再生可能エネルギーって何だろう? 3
	(2) 世界の環境先進国はすごい!! 5
	(3) 淡路島のエネルギーの自給自足 7
	(4) 環境にやさしい乗り物 7
3	農漁業生産で生きる島	
	(1) 生産品の魅力を発信 9
	(2) 農業をはじめの人たち 11
	(3) これからの農漁業 13
4	都会にない価値観とくらしやすい淡路島	
	(1) 地域資源を活かした地域づくり 15
	(2) 淡路島らしい仕事づくり 17
	(3) 高齢者にやさしい島 18
5	これからの淡路島を考える	
	(1) どんな島が良いのか考えてみよう 19
	(2) わたしたちにできること 22

参考文献・引用文献一覧

写真・協力者一覧

作成委員会・作成部会員名簿

おわりに 淡路教育事務所長

あとがき あわじ環境未来島・淡路ふるさと学習副読本
作成委員会 委員長

1 わたしたちの住む淡路島



わたしたちの住む淡路島は、どんな島でしょうか？
今の淡路島はどうなっているのか、考えてみましょう。

みなさんの住んでいる淡路島は、温暖な気候で、太陽が地上を照らす時間も長く、花と緑が豊かな島です。古くは万葉の時代^(※1)から、食材を朝廷に献上していたので「御食国」とも呼ばれ、農業や漁業が盛んです。

また、日本ではじめてできた島とされる「国生み神話」の言い伝えがあるなど歴史ある島で、人々のつながりも強い地域です。



淡路島の風景「あわじ花さじき」



しかし一方で、少子高齢化^(※2)、働く場所の減少、公共交通機関^(※3)の縮減、後継者不足^(※4)など様々な課題もあります。これは淡路島だけでなく、日本の地方共通の課題でもあります。

2 自然にやさしく、すこやかに暮らし続けられる淡路島をめざして

なぜ、あわじ環境未来島構想に取り組むのでしょうか？



1 あわじ環境未来島構想とは

淡路島のかかえる課題に対して、島の良さを活かして、自然にやさしく、すこやかに暮らし続けることができるよう様々な地域づくりを進めます。そして、この取り組みが、日本全体のモデルとなり、その成果を国内外の発展に役立ててもらいたいこともめざしています。

※1 万葉の時代：日本の最古の和歌集「万葉集」が編まれた7世紀後半から8世紀後半の時代のこと。
 ※2 少子高齢化：子どもの数が少なくなり、高齢者の割合が高くなること。
 ※3 公共交通機関：不特定多数の人が利用するのりもの。淡路島では、路線バスや定期船のこと。
 ※4 後継者不足：農業や漁業などの仕事を受けつぐ人がなく、足りないこと。
 ※5 高齢化率：65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合。

あわじ環境未来島ってどんな島でしょうか？
淡路島で取り組まれているのを見てみましょう。



あわじ環境未来島
ロゴマーク

2 構想の進め方

環境や人と人とのつながりを大切にしながら、エネルギーや食料を自分たちの地域で必要な量をまかない、子どもから高齢者までが充実した生活を送ることができるような取り組みを、兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市をはじめ住民グループ、企業などの様々な人々や団体で進めています。

また、淡路島全域を地域活性化総合特区^(※6)である「あわじ環境未来島特区」として国から指定を受け、特区の仕組みを活用し、国の支援も得ながら進めています。

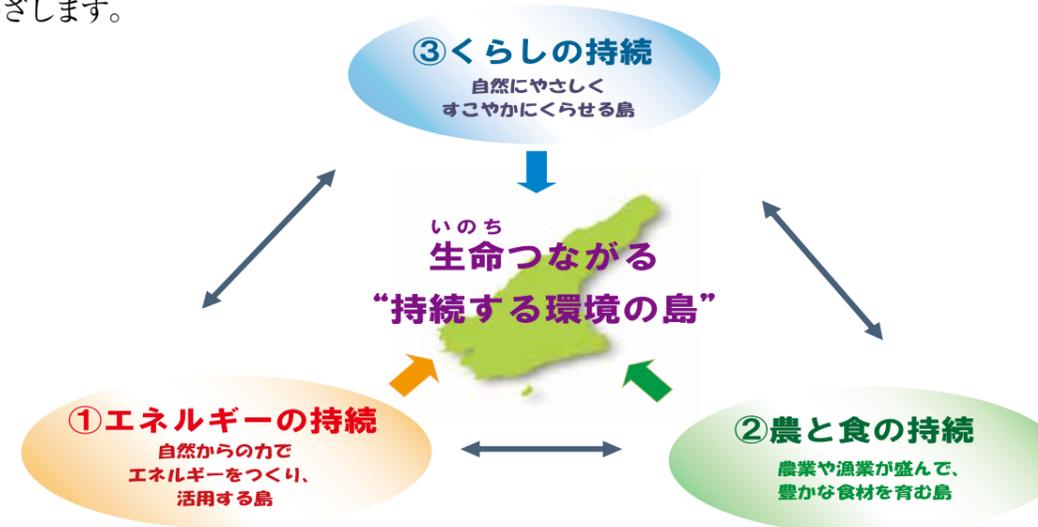
3 取り組みの3つの柱

淡路島の最大の強みは、エネルギーと食料を自分たちの地域で必要な量を生産できる、恵まれた地理的環境にあります。その強みを活かして、

- ①太陽光などの再生可能エネルギーを活用して「エネルギーの持続」ができる島
- ②安心と健康を支える食の生産を通じて「農と食の持続」ができる島
- ③人と人、人と自然のつながりを大切にしながら「くらしの持続」ができる島

をめざします。

「エネルギー」「農と食」「くらし」の3つの持続を柱に「生命つながる“持続する環境の島”」の実現をめざします。



取り組みの3つの柱と地域の将来目標

4 みなさんが主役

自然にやさしく、すこやかに暮らし続けられ、住んでみたいと思う淡路島をみなさんでつくっていきましょう。

私たちの淡路島が、一層魅力ある島となるにはどうしたら良いでしょうか。この副読本を通じて、将来の淡路島を一緒に考えていきましょう。

※6 地域活性化総合特区：地域資源を最大限活用した地域活性化をはかり、他に先がけた取り組みを行う実現性が高いとして指定された区域であり、規制・制度の特例などの支援を国が行う。

1 再生可能エネルギーって何だろう？



新しいエネルギーの研究や開発がすすめられているのを知っていますか？
未来のエネルギーについて考えてみましょう。

① わたしたちの暮らしとエネルギー



(出典 四国電力HP)

わたしたちの生活になくてはならないのがエネルギーです。くらしが便利になるにつれエネルギーの消費量は、年々増加しています。さらに世界の人口の増加にともないエネルギーの消費量は、今後ますます増え続けていくと予想されています。

さらに、これまでのような石油や石炭などの化石燃料にたよる発電では、地球温暖化につながる温室効果ガスを排出するという問題があります。そして、なにより石油や石炭などの資源には限りがあります。

また2010年まで原子力による発電が30%近くを占めていましたが、2011年の東日本大震災が原因の事故により、安全性の確保などが課題となっています。このため2011年以降、全国の原子力発電所が長期停止するなどの事態が起きています。

(資料1) 世界の人口と エネルギー消費の見通し



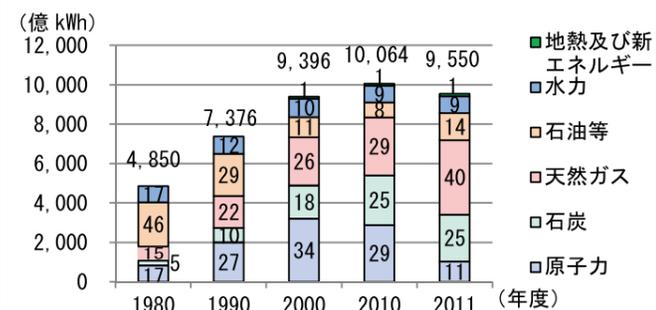
(出典 四国電力HP)

(資料2) 各資源の利用可能な年数



(出典 BP 統計 2012. OECD-IAEA「URANIUM2011」)

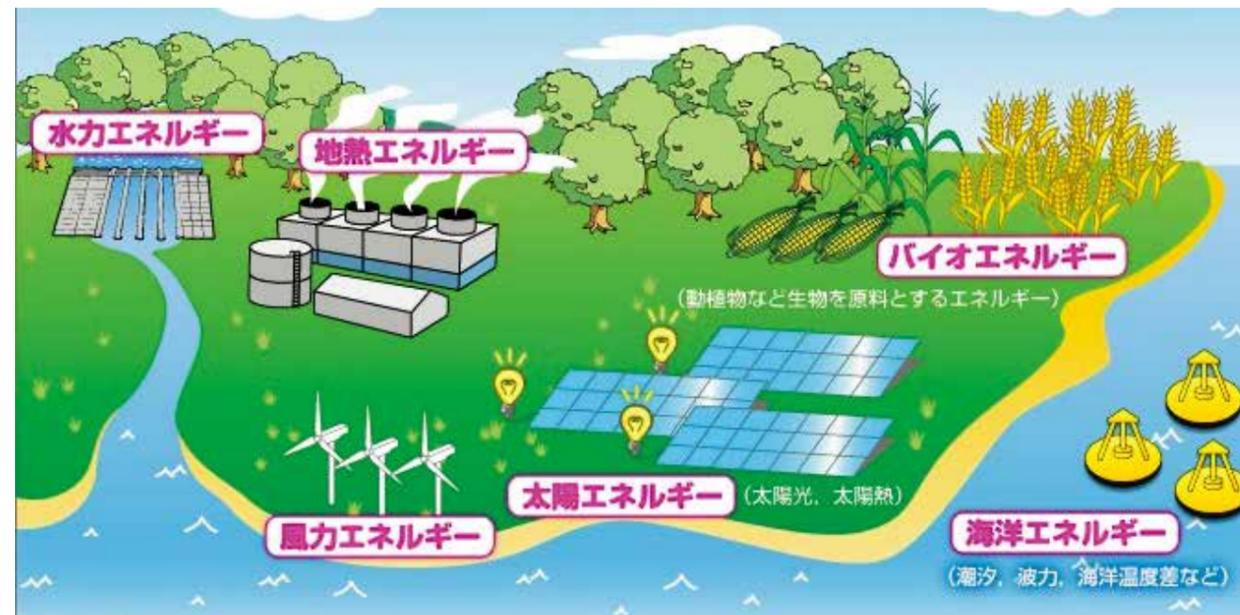
(資料3) 電源別発電電力量構成比



※グラフ内の数値は構成比(%)。2011年度は、東日本大震災の影響による原子力発電所の長期停止等により、火力発電量が增加。

(出典 電気事業連合会資料より作成)

② 持続可能な未来のために欠かせない再生可能エネルギー



(出典 外務省HP「わかる！国際情勢」)

そこで注目されているのが、次の3つの要素を兼ね備えた「再生可能エネルギー」です。

1. どこにでもある！ …太陽光や、風力は、どこにでもあるエネルギーです！
2. 地球温暖化につながらない！ …温暖化の原因である二酸化炭素を増やしません！
3. 限りがない！ …自然の力は、限りなく、なくなる心配がありません！

太陽光、風力、水力、潮流など、自然から取り出せ、いつまでも使い続けることができ、なくなる心配がないエネルギーのことを「再生可能エネルギー」といいます。

再生可能エネルギーは、二酸化炭素などの温室効果ガスを発生しないため、石油や天然ガスなどの化石燃料に代わるエネルギーとして期待されています。

今後、持続可能な未来のために、なくてはならないエネルギーといえます。

「再生可能エネルギー」について調べてみよう！

経済産業省ホームページ →キッズページ
<http://www.meti.go.jp/intro/kids/index.html>
 NEDO (ネド) キッズページ
<http://www.nedo.go.jp/kids/>
 NEFキッズ探検隊
<http://www.nef.or.jp/kids/index.html>



※1 持続可能な : 環境を維持し自然資源をなくすことなく、将来世代に受け継いでいくことができること。

2 世界の環境先進国はすごい!!



再生可能エネルギー100%をめざすデンマーク王国では、どのような発電が行われているのか、調べてみよう!

1 デンマーク王国の再生可能エネルギーへの取り組み

デンマーク王国(以下「デンマーク」)はかつて、エネルギー供給の90%を輸入原油に頼っていました。

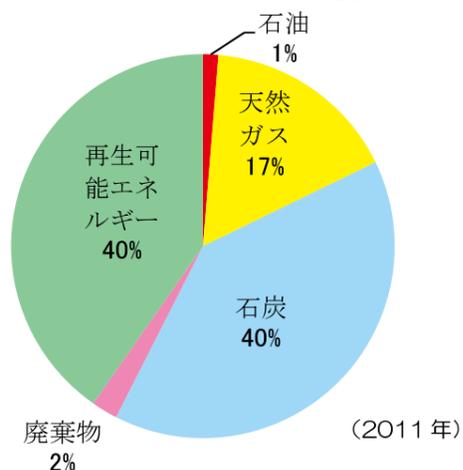
しかし、1970年代の石油危機^(※1)によって原油価格がひどく上がり経済に大打撃を受けたため、平地が多い地形を活かした風力発電や農業、酪農国の産業特性を活かしたバイオマス発電^(※2)など、再生可能エネルギーの導入に力を入れています。

デンマークは、2050年までに再生可能エネルギーだけで必要なエネルギーを全てまかなうことをめざしており、この30年の間に総消費量に占める再生可能エネルギーの割合は3%から20%と劇的に伸びるなど国を挙げての取り組みが行われています。



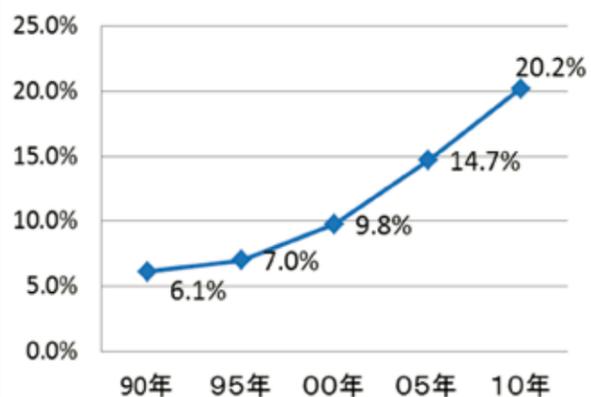
デンマーク王国地図 (出典 外務省HP)

デンマークの発電に占める燃料の種類



(出典 国立国会図書館資料を基に作成)

エネルギー総消費量に占める再生可能エネルギーの割合



(資料 Energy Statistics 2010, Danish Energy Agency から作成)

※1 石油危機 : 中東諸国による石油の供給が限られ、値段が高くなることで起きた世界的な経済危機のこと。

※2 バイオマス : 動植物などから生まれた生物資源の総称。デンマークのバイオマス発電では、麦わらや家畜のフンなどを直接燃やしたりガス化するなどして発電します。

2 デンマークの洋上風力発電

デンマークでは、1891年に世界で初めて風力発電機が設置されるなど、早い時期から風力発電の開発に力を入れてきました。現在では、国内の電気需要の20%を風力発電でまかなうなど、エネルギー政策が進んでいる国として世界から注目を集めています。

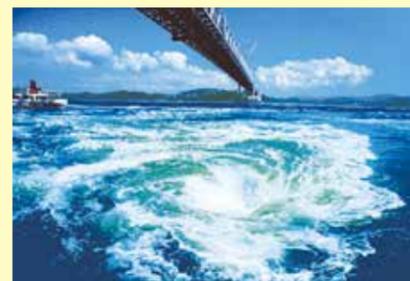
現在、デンマーク国内にはすでにたくさんの風力発電所があり、設置場所が不足していることから、その設置場所は、陸地から海上に移行しています。このような海上での風力発電を洋上風力発電といいます。



洋上風力発電は、陸地よりも次のような点でメリットがあるといわれています。

1. 強い風力が得られる…発電量が多い!
2. 風の強さが安定している…発電効率が良い! 故障が少なく長持ちする!

デンマークは、環境を活かした再生可能エネルギーを活用した発電をしていることがわかるね。みんなの住む淡路島でも、地域の特性を活かした再生可能エネルギーの開発は、できないだろうか?



鳴門海峡の渦潮



菜の花



太陽に照らされた棚田

2 再生可能エネルギーの島



淡路島は、温暖な気候で、日照量も多く、西風が吹き、広大な未利用地もあります。これらの地理的特性を活かしたエネルギーの自給自足に向けて進められている取り組みについて調べてみよう。

3 淡路島のエネルギーの自給自足

淡路島のエネルギー（電力）自給率は、2011年では8%ですが、太陽光や風力等の再生可能エネルギー創出に取り組むことにより、2050年には100%をめざしています。

西風を生かした風力発電

淡路島西岸部の風を活用し、遠浅の地形を利用した洋上風力についても調査を行っています。



南あわじ市阿那賀地区
(2500 kw × 15基)



淡路市野島地区
(2000 kw × 6基)



〈イメージ図〉
洲本五色町沖（調査中）

様々なバイオマスの利用

菜の花油などの食用油や、動物や植物などから生まれた生物資源（バイオマス）を活用して燃料などに利用し、資源のリサイクルを行っています。



菜の花バス
(洲本市五色町)



使用済食用油から燃料を製造する装置
(洲本市五色町)

「バイオマス」は、動物、植物などから生まれた生物資源の総称だよ。

菜の花バスの排気ガスは、菜種油のにおいがするんだよ。

淡路市野島地域の風力発電所では、約5500世帯分の電気が作れるんだよ。

あなたが南あわじ市阿那賀地区の風力発電所では、約12000世帯分の電気が作れるんだよ。



☀️...主な大規模太陽光発電所
(計画含む)
🌀...主な風力発電所

速い潮流を生かした潮流発電

淡路島には、潮の流れが速いことで有名な明石海峡があります。そこに発電機を設置しようと調査が進められています。

〈イメージ図〉



淡路島沖の海底

豊かな日照を生かした太陽光発電

一年を通して晴れる日が多い瀬戸内気候を活かして、大規模な太陽光発電所が多数設置され、発電を行っています。



あわじメガソーラー1 (1 MW)
(淡路市生穂新島)



住民参加型太陽光発電所 (1 MW)
(淡路市岩屋)

淡路島では太陽光による発電容量が平成27年には全体で100メガワットになるよ。

4 環境にやさしい乗り物

淡路島には、鉄道がなく、公共交通機関が十分ではありません。そのため、住民の移動手段は、自動車を中心となっています。現在、多くの自動車は、二酸化炭素の排出量が多いガソリンなどの化石燃料で走っています。そこで淡路島では、より二酸化炭素の排出量が少ない、環境にやさしい電気自動車の導入を進めています。

	自動車が1km走る間に排出される二酸化炭素の量	エンジンの騒音	しん 振 動
電気自動車 (1kwhあたり9km走る車)	51 g	ほとんどない	ほとんどない
ガソリン車(1Lで20km走る車)	115 g	ある	ある

電気自動車って知っていますか？どこが今までの自動車とちがうのだろう。電気自動車の他にも、環境にやさしい乗り物があるよ。調べてみよう！



※電気自動車の二酸化炭素排出量は、関西電力(株)による二酸化炭素排出係数(平成23年度)により算出しています。
※ガソリン車の二酸化炭素量は、1Lあたりの二酸化炭素排出量を2.3kgとして計算しています。



1 生産品の魅力を発信

淡路島の特産品の魅力を調べてみよう！



淡路島は多くの農水産物を朝廷に献上していたので「御食国」と呼ばれていました。古くから農水産物が豊富であり、おいしい食材が多かったことが分かります。現在も、県内の農業生産額の約1/4、漁業生産額の約1/3を産み出しており、淡路島の食料自給率は100%(*1)を超えています。温暖な気候風土で、多くの農漁業者がいる淡路島だからこそできるのです。しかし、淡路島の食材の魅力が島外の人たちに十分に知られていません。そのため、島内外の多くの人に食べてもらい、知ってもらえるように淡路島の特産品の魅力を発信していくことが必要です。



1 淡路島の特産品

淡路島たまねぎ

年間を通じて瀬戸内海特有の温暖な気候に恵まれた淡路島。日光が当たる時間が長く、じっくりと時間をかけて育てるため、糖度が高く日本一甘いと評判の淡路島たまねぎとなっています。また、香りも良く、たまねぎ特有の辛みはひかえめなので、どんな料理にもぴったりとあいます。



淡路牛

日本を代表する松阪牛や神戸牛もそのルーツは「淡路牛」にあります。淡路島では、肉質の良い母牛ばかりを選定し計画的な交配を行っています。そのようにすることで、質の良い淡路牛ができます。淡路牛の霜降り肉は和牛独特の旨味と香りが引き立つ最高級品でもあります。



鯛

海に囲まれた淡路島。その潮の急流の中で育った淡路島の鯛は、身が分厚くよくしまつて食べ応えがあります。鯛本来の上品で淡白な味わいをいかす活け造りや、那智黒石を敷き詰めた宝楽鍋で蒸し焼きにした宝楽焼きなどが有名です。



2 新しい淡路島ブランドを育てる～3年とらふぐ～

淡路島の南端、福良湾では、3年とらふぐを淡路島ブランド(*2)にするために、手間をかけて育てています。

鳴門海峡の潮流が生み出すミネラル豊富な漁場で「淡路島3年とらふぐ」は、通常は2年で育てるところを、3年の歳月をかけ、国内産の稚魚のみを大切に育てる事で、より引き締まった身となり、ひと味ちがう濃厚な旨味・歯ごたえがあります。

3年間育てる間には、水温の大きな変化で病気になる事もあり、稚魚を35,000匹育てても、3年後には、半分くらいになってしまいます。

生産者は、大きな生け簀でのびのびと泳がせ、水温に気を使いながら大切に育てています。



1・2年もの比べると大ききの違いは歴然！

3 淡路島ブランドを全国に！

淡路島の農畜水産物をつくる人、商品に加工する人、売る人さらに観光が一体となって、淡路島を魅力的にするとともに、京阪神などの大きな都市の人々にも淡路島ブランドを知ってもらおう取り組みがおこなわれています。例えば、神戸や大阪などで淡路島フェアを開催しています。



淡路島ブランドで売り出しているものだよ！他にもどんなものがあるのか調べてみよう！



淡路島牛丼



淡路島バーガー



牛乳



生しらす丼

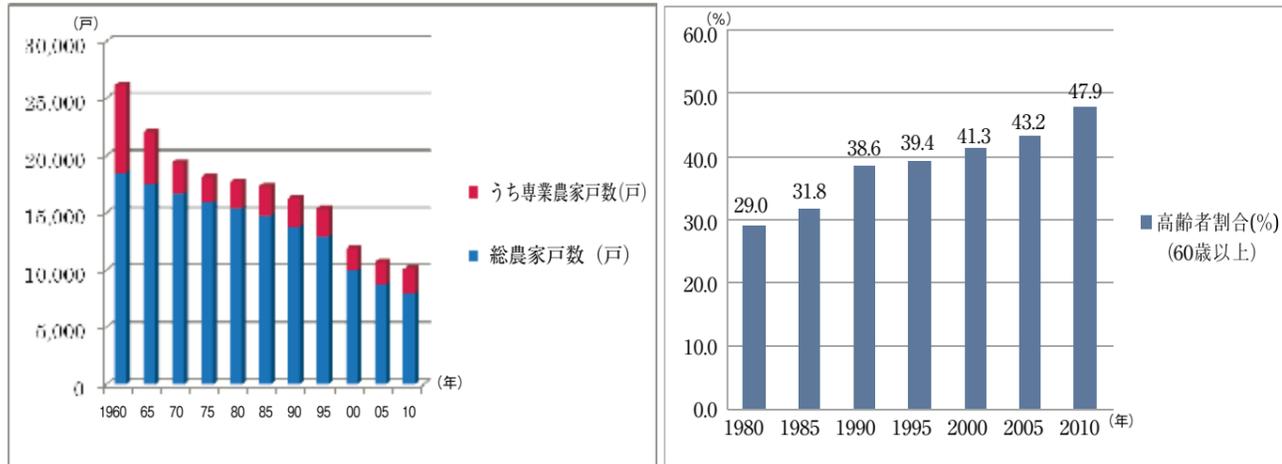
*1 食料自給率100%：食料自給率には、カロリーベース総合食料自給率と生産額ベース総合食料自給率があり、2010年の淡路島の食料自給率はカロリーベース111%、生産額ベース370%です。

*2 ブランド：同じような商品を他のものと区別すること。ブランド化することで、地域の信頼と知名度をあげ、商品の価値を高めることができます。

2 農業をはじめの人たち



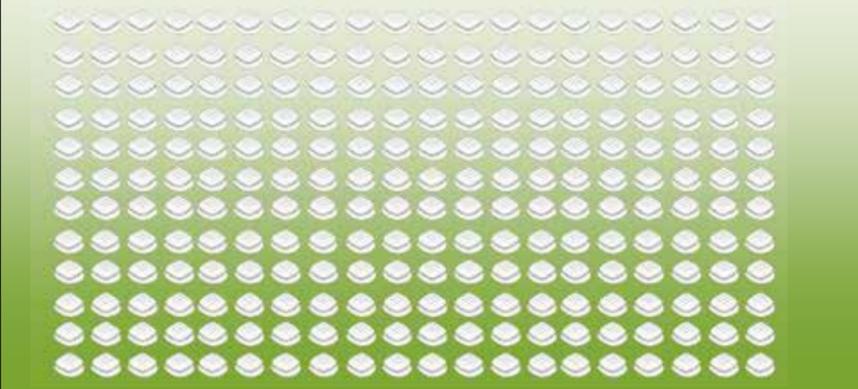
淡路島の農家の数って減っているのかな？増えているのかな？



淡路島における農家戸数の推移 (出典 農林業センサス)

淡路島における農業従事者数に対する高齢者の割合の推移 (出典 農林業センサス)

淡路島における耕作放棄地 1130ha
東京ドームで換算すると・・・約 240 個分！！



淡路島における耕作放棄地面積 (出典 2010年農林業センサス)

農家人口が減るとどんな問題が起こるのかな？



淡路島の特産品が知られてきている一方で、農業をしている人の高齢化が進み、耕作放棄地(※1)が増えています。これは、農業の後継者が不足していることが原因です。深刻な後継者不足を解決する取り組みを調べていきましょう。



淡路島の農業後継者を増やすには、どうしたら良いのだろう？

※1 耕作放棄地：農作物が過去1年間以上栽培されず、農家がこの数年の間に再び耕作する意思のない土地のこと。

1 農業にチャレンジする人たち

淡路市北部では、国・県により農地開発が行われたところがあります。高齢化や後継者不足によって、その農地の活用が難しくなり、約150haの土地が耕作放棄地となっています。このような耕作放棄地を活用し、農業の新しい手を育てようとする取り組みが民間企業で行われています。この民間企業では、島内外の農業をしたい人たちが集まり、淡路島で農業を体得し、実際に淡路島の耕作放棄地を耕すことを行っています。

2 将来の農業をになう人たち

淡路島にある農業を教える大学では、これからの農業を支える人を育てるために、農業生産の技術だけでなく、加工および販売なども含めた6次産業化(13ページに記載)に必要な幅広い知識と技術を教えています。これも淡路島の豊富な自然があればこそ学べることです。

農業にチャレンジする人の話

あまがさし 尼崎市出身

(半導体関係のエンジニアから農業へ)

[淡路島で農業を学ぼうとしたきっかけは・・・?]

農業をしたことはありませんでしたが、自分で商売をやりたいと思い、色々勉強したい事を探していて、小さい時にも来たことがある淡路島で農業を学ぼうと思いました。

[将来の夢は・・・?]

ハウス栽培をやりたいとずっと思っていて、学んでいます。夏はトマトを作りたいと思っています。何を作付けすれば、1年間安定した収入が得られるかを学び、最終的には独立して、どんどん農園を大きくしていきたいです。



淡路島の大学で農業を学ぶ学生の話

しゅうなんし 山口県周南市出身



[農業を学ぼうとしたきっかけは・・・?]

小学校高学年の頃に、地元の人に教えてもらったことが農業に関心を持ったきっかけです。実家も兼業農家で、小学生の頃から手伝いもしていました。自分で植えたものを自分で収穫して、それを食べる。自分で作ったからおいしいと感じました。そこで、もう少し専門的に農業を勉強したいと思いました。

[大学卒業後はどんなことをしたいですか・・・?]

もともとは野菜作りを専門としたかったが、大学での授業を聞いて農業の6次産業化をしないといけないと思いました。生産から加工、販売までを引き受けられるようなノウハウを身につけて、それを生かせる仕事につきたいです。

3 これからの農漁業

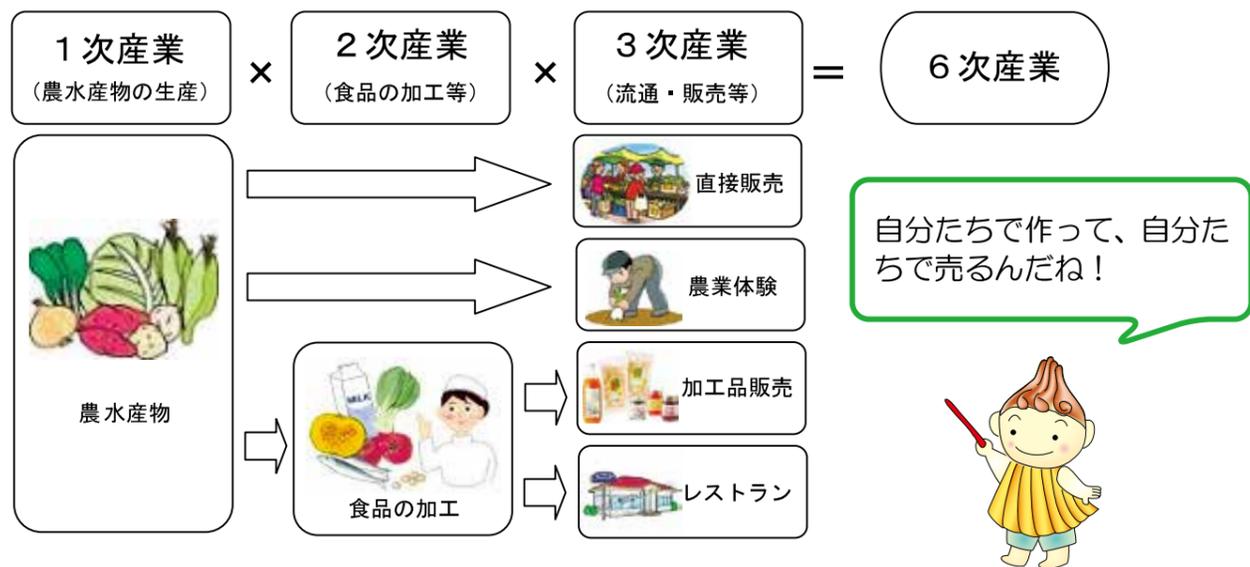


これからの農漁業のあり方を考えよう!

農業、漁業ともに大きな課題は、仕事内容と収入のバランスです。現在は、少量多品目の農水産物では販売先がない状況にあります。他にも機械化が進み燃料や修理にお金がかかっています。そこで、より安定した収入を得るための6次産業化の取り組みを進めています。また、漁船が排出する温室効果ガスの量を減らす取り組みを進めています。

1 農漁業の6次産業化

農漁業者が、農水産物の生産(1次産業)だけでなく、加工(2次産業)、流通・販売(3次産業)に取り組んでいくことを6次産業化といいます。



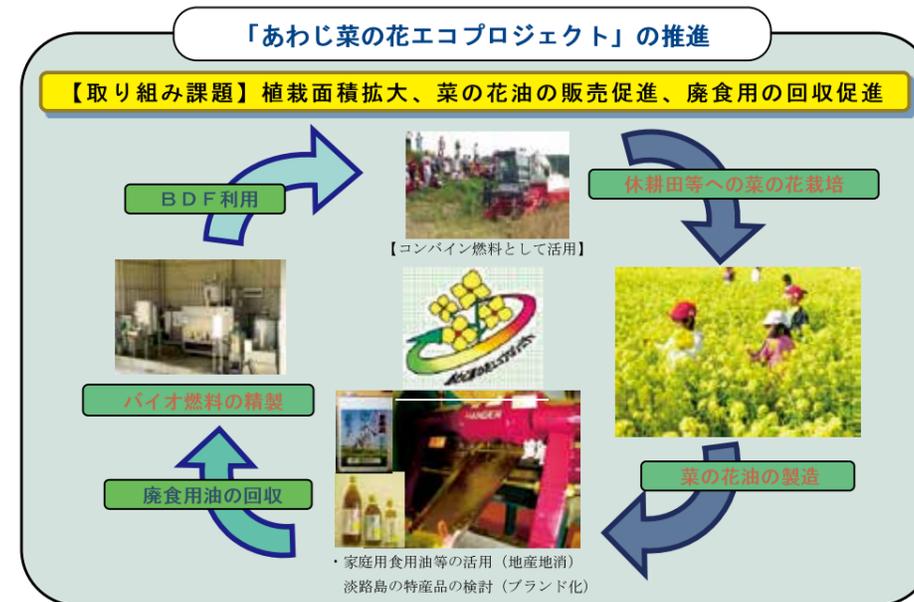
2 地域でとれたものを地域で食べる、地産地消

児童数の減少などで閉校した島内の小学校を改築して、レストランができました。このレストランでは近隣の農場で生産された農産物の加工品や料理を提供しています。農業を中心とした加工品の開発や流通、販売と観光をつなげる取り組みとして注目されています。



3 資源循環型モデルの実践

淡路島内で進むあわじ菜の花エコプロジェクトの取り組みは、休耕田などに菜の花を植え、実ったなたねを収穫し、「なたね油」をしぼって天ぷらなど食用として利用します。そして、使用したなたね油や食用油を回収し、「バイオディーゼル燃料(「BDF」と言います。)」という燃料を精製します。精製したBDFを、農業機械などの燃料として再利用します。そうすることにより資源の循環を実践するプロジェクトです。



4 農漁業の低炭素化

あわじ菜の花エコプロジェクトの取り組みにより精製したBDFを、農業機械に燃料として利用します。これによって、農業機械から排出される温室効果ガスを増やしません。

また、淡路島は漁業が盛んで約3千隻の漁船が操業しています。漁船は、化石燃料(*1)に頼っているため大量の温室効果ガスを排出しています。また、近年燃料の価格が高くなり、漁業の経営にも影響しています。その対策として、電動漁船の開発にも取り組まれています。

洲本市五色沖では、温室効果ガスの排出を削減するため、完全電動漁船を試験的に導入しています。海苔の養殖の作業や沿岸部の見回りを中心に活用しています。



環境を考えた取り組みだね!



*1 化石燃料 : 石炭・石油・天然ガスなどのエネルギー資源のこと。

1 ちいきしげん い 地域資源を活かした地域づくり

淡路島の魅力やくらしやすさって どんなどころにあるのだろう？



1 定住人口の減少をおさえ、交流人口の増加を

日本の多くの農山漁村と同じように淡路島でも人口(※1)が減少し、活力が失われる心配があります。そこで、定住人口をなるべく減らさないようにするとともに、観光で訪れる人や島外から移り住む交流人口を増やすことが必要です。



これから淡路島の人口はどのようになっているのだろう。



あわじくらし総合相談窓口

実際に田舎のくらしを体験してもらおうなど、淡路島に移り住みたい人のお手伝いをしています。

2 淡路島の地域資源

淡路島にもすばらしい地域資源(※2)がたくさんあります。たとえば、温暖な気候、美しい景色、古い街並み、歴史と文化、おいしい食べ物などです。また、ゆっくりとした時間の流れや、人々の温かさなども地域資源といえます。



神戸、大阪、徳島に近いことも魅力の一つだね。



※1 人口：その地域に住んでいる人のことをさす定住人口と、その地域を訪れたり滞在したりする交流人口とがあります。定住人口と交流人口を合わせた人口を増やすことが、地域の活性化につながっていきます。

※2 地域資源：その地域にしかない特色のあるものや人のこと。

3 地域資源を活かした活性化

淡路島各地では、さまざまな地域資源を活かし、地域を元気にするための取り組みが行われています。また、となりの地域とも一緒になって、地域の魅力を発信しています。

淡路市五斗長・生田・長澤地区

五斗長地区には全国的にもめずらしい鉄器づくりを行っていた五斗長垣内遺跡があります。この貴重な遺跡を地域資源として、古代体験やイベントを行なっています。さらに、体験や交流ができる施設もでき、訪れる人も増えてきました。



近くにある生田地区では、美しい風景の段々畑にソバが栽培されています。使われなくなった保育所を改装して「手打ちそば」の店を開いたところ、年間1万人も訪れる人気店となり、地域の活性化に役立っています。



また、となりの長澤地区でも、廃校になった小学校を利用して美術展やコンサートも開かれ、週末にはおしゃれなカフェも営業しています。

この三地区をのんびりと周遊してもらいながら、地域の魅力を再発見してほしいと思います。



[3地区連携推進協議会スタッフの話]

地域を元気にするアイデアをみんなで話し合ってみよう。



城下町洲本レトロなまち歩き

洲本市の中心部には、城下町の風情がたくさん残っています。古くなった空き家を改修し、新しい店をオープンさせたり、イベントを行ったりして、街に活気を取り戻しています。

南あわじ市沼島地区

沼島地区では、古民家を改修して、新しく総合観光案内所「よしじん」が誕生しました。

沼島には昭和30年代の日本の姿が残っています。自然の美しさだけではなく、「人のつながり」も残っています。これは都会にはない魅力です。

「よしじん」に遊びに来てくれる地元の中学生は、「何にもないと思っていた沼島が都会の人から見れば『宝の島』である」ということに気づいてくれました。今では「島を誇りに思うようになった」そうです。沼島には人を成長させる魅力があるのだと思います。すばらしい地域資源があるので、もっと活用しなければもったいないです。

子どもたちの未来のためにも、沼島をもっと住みやすい島にしたいと考えています。

[沼島総合観光案内所「よしじん」スタッフの話]



2 淡路島らしい仕事づくり

淡路島の地域資源を活かした仕事や働き方ってなんだろう？



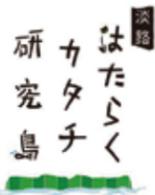
淡路島では、企業の再編等で、雇用の場が少なくなっています。そこで島内の農業、観光、地場産業等を活かした仕事や新しい働き方を考える動きも生まれてきています。

1 都会にない価値観を求めて、島に移住した人たち

淡路島は温暖な気候で景色が美しく、都会にはない魅力がたくさんあります。そうした都会にない価値観を求めて、淡路島に移住する人たちがいます。淡路島に移住しやすいように、相談窓口を開くなどの取り組みが行われています。

2 魅力的なはたらく人、はたらく場、はたらく機会づくり

淡路島で地域資源を活かした新しい「はたらくカタチ」をみんなで考え、魅力的なはたらく人、はたらく場、はたらく機会をつくる取り組みが行われています。仕事を探している人には新たな技術を学ばせ、仕事をいとなむ人には仕事の幅を広げる研究会があります。



【参考:はたらくカタチ研究島 <http://hatarakukatachi.jp/>】

3 はたらきたいすべての人たちに、はたらく場づくり

すべての人たちには、それぞれの力を活かすことのできる「役割」や「仕事」があると考え、障がい者・働く意欲のある高齢者・引きこもりの青少年などにも、はたらき方を考え、仕事をつくったり、関係者をまとめたりしている団体があります。

また、島外からの移住希望者の支援を行っている団体や、淡路島にくらす人々が、個人の世界観を広げ、心豊かな生活ができることをめざしている団体もあります。

【参考:NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路 <http://awajisoda.jp/>】

【参考:NPO法人あわじFANクラブ <http://awajifan.web.fc2.com/>】

【参考:NPO法人淡路島アートセンター <http://awajishima-art-center.jp/>】

豊かなくらして、
どんなくらし？
みんなで話し合っ
てみよう。



実際に移住した人たちの話

西宮育ち。服飾関係の会社に就職、生きにくい都会で心の病気になる、一から十まで自分の手仕事でできる百姓になりたくて淡路島に移住しました。いちじくやじねんじょの栽培のほかに、病気をきっかけに始めたヨガの指導もしています。心と体のバランスを保てる場を提供し、笑顔あふれる未来をつくりたいと活動しています。



神戸生まれ。6年間、丹波篠山で陶芸の修業をし、祖母の住む淡路に移住しました。古民家を新しく改築し、窯をつくり、カフェをオープンしました。カフェには地元の猟師さん、農家の方たちも来てくれるいろんな話を聞かせてくれます。自分で体験したこと、おもしろいと思ったことを発信しています。



3 高齢者にやさしい島

高齢者にやさしいまちづくりを考えよう。



島内の人口が減少する一方で、高齢者は年々増加しており、人口に占める65歳以上の高齢者の割合は今後ますます高くなっていきます。また高齢者の一人ぐらしや夫婦だけの世帯も今後、増加していくと予想されています。このため、高齢者が、住み慣れた地域で健康で安心して生活できるまちづくりを進める必要があります。

1 高齢者の健康・居場所づくり(いきいき百歳体操)



いきいき百歳体操は、おもりを手首や足首につけて行う筋力運動です。おもりは2kgまで調節が可能なので、その人の筋力や体力に合わせて行うことができます。イスに座ってゆっくりと手足を動かしていきます。

高齢者の歩く力を高め、閉じこもりを予防するため島内各地で取り組みが進められています。

2 高齢者の移動手段づくり

山あいの公共交通手段が少ない地域において、高齢者が安全で快適に運転できる電動アシスト四輪車などの乗り物の開発に取り組んでいます。また、超小型電動車の走行実験も行われました。



【電動アシスト四輪自転車】
(イメージ図)



【超小型電動車】

3 スマートコミュニティづくり

南あわじ市沼島地区で、災害に強く、電力の自給自足を目指す技術開発をしています。また洲本市五色地区では、電気使用量の変化を通じて高齢者を見守る仕組みづくりも検討されています。



スマートコミュニティとは
地域社会がエネルギーを消費するだけでなく、つくり、蓄え、賢く使うことを前提に、地域単位で統合的に管理する社会的システム



5 これからの淡路島を考える

1 どんな島が良いのか考えてみよう



みんなが考える将来の淡路島はどんな島かな？
将来の淡路島について話し合ってみよう。

これまで、あわじ環境未来島構想による取り組みを見てきました。これらの取り組みを参考にして、私たちの住む淡路島の将来について考えてみよう。

将来の淡路島はどんな島？

私たちが住む淡路島を、もっとすてきな島にするにはどうしたらいいだろう。自分たちが考える将来の淡路島を下の例を参考にしてつくってみよう。

取り組みの例

- | | | | |
|---|--------------------|---|-------------------|
|  | …… 太陽光発電 |  | …… 風力発電 |
|  | …… 潮流発電 |  | …… バイオマス |
|  | …… 電気自動車 |  | …… 電動漁船 |
|  | …… 農業後継者の育成 |  | …… 農業を学ぶ学校 |
|  | …… 廃校舎の活用 |  | …… 地域おこし |
|  | …… 交流施設 |  | …… 電動アシスト自転車 |
|  | …… 仕事づくり |  | …… 高齢者の安心を支える街づくり |
|  | …… 自分の考えたものをいれてみよう | | |

私たちの考える将来の淡路島

Large empty rounded rectangle for drawing or writing.



2 わたしたちにできること



みんなが考える淡路島にするためには何ができるかな？
実際に体験した人の感想も聞いて考えてみよう。

これまで、私たちの住む淡路島の将来について考えてきました。ここでは、実際にあわじ環境未来島構想の取り組みを見学した人たちの感想を見てみよう。そしてわたしたちにできることは何だろう。

淡路島の人が減っているの
におどろいた。
(淡路市小学3年生)

五斗長垣内遺跡で、まが玉
を作るのが楽しかった。
(洲本市小学3年生)

淡路風力発電所を見学して、風力
発電をもっと増やしてエコに発
電してほしいと思った。
(南あわじ市小学5年生)

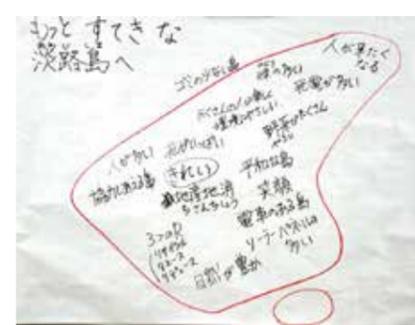
チャレンジファームを見学して、
淡路島で農業をする人は少なく
なっているの、農業をやりたい
人を育てたり、応援することは
大切なことだと思った。
(南あわじ市小学4年生)

のじまスコラを見学して、も
ともと小学校だった所が、レス
トランになっていたことにおど
ろいた。
(淡路市小学5年生)

菜の花エコプロジェクトを見学
して、BDFがいろいろな所で使
われていて、びっくりした。
(淡路市小学5年生)

あわじメガソーラー1を見学し
て、もっと太陽光発電が増えたら
いいと思った。
(洲本市小学6年生)

電気自動車はとても静かでおど
ろいた。
(南あわじ市小学4年生)



すてきな淡路島になるように、
みんなで話し合っているね。

【参考文献・引用文献】（五十音順）

「淡路島百景」 淡路県民局洲本土木事務所
 「淡路地域農林水産ビジョン2020」 淡路県民局洲本農林水産振興事務所
 「あわじ菜の花エコプロジェクト」 あわじ菜の花エコプロジェクト推進会議
 「Energy Statistics 2010」 Ministry of Statistics and Programme Implementation
 「エネルギーを考えよう」 四国電力株式会社
 「環境未来都市提案書」 兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市
 「地域活性化総合特別区域指定申請書」 兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市
 「電力事情について」 電気事業連合会
 「農林業センサス」 農林水産省
 「レファレンス 2013年9月」 国立国会図書館
 「わかる!国際情勢 vol.86」 外務省

【写真・取材及び資料提供協力者】（五十音順）

（個人）

赤松 清子
 五十嵐太郎
 大原 浩
 大村 太一
 金子 猛
 重永 大慈
 高田 一民
 田村伊久男
 西村 昌晃
 畑山信乃武
 細谷 光宏
 茂木 綾子

（敬称略）

（団体）

淡路市
 一般社団法人淡路島観光協会
 一般財団法人淡路島くとうみ協会
 淡路地域雇用創造推進協議会
 生田地域活性協議会
 ウェルネスパーク五色
 関電エネルギー開発株式会社
 吉備国際大学地域創成農学部
 五斗長まちづくり協議会
 3地区連携推進協議会
 城下町洲本再生委員会
 食のブランド「淡路島」推進協議会
 洲本市
 沼島総合観光案内所「吉甚」
 のじまスコーラ
 ノマド村
 株式会社パソナ農園隊チャレンジファーム事業部
 兵庫県
 南あわじ市

【あわじ環境未来島・淡路ふるさと学習副読本作成委員会】

【委員】

委員長	鬼本英太郎	（淡路県民局副局長）
副委員長	藤長 義馬	（淡路県民局総務企画室長）
委員	大石 正勝	淡路ふるさと学習副読本作成部会長 （淡路教育事務所長）
委員	岸 和民	あわじ環境未来島副読本作成部会長 （淡路県民局公園島推進室長）
委員	石田 悦雄	（一般財団法人淡路島くとうみ協会専務理事）
委員	岡田 昌史	（南あわじ市教育長） （南あわじ市・洲本市小中学校組合教育長）
委員	岡本 光弘	（淡路文化会館長）
委員	河上 和慶	（洲本市教育長）
委員	清水 昭男	（淡路青少年本部長）
委員	高田貴代志	（淡路市教育長）
委員	武田 信一	（淡路地方史研究会長）
委員	投石 文子	（兵庫県立長田商業高等学校長）
委員	松尾 昭良	（淡路地域ビジョン委員会委員長）

【あわじ環境未来島副読本作成部会】

【作成部会員】（五十音順、敬称略）

日外 千景（淡路市立志筑小学校）
 上原 泉（南あわじ市立神代小学校）
 徳梅 昌行（淡路市立北淡中学校）
 中谷 崇人（洲本市立鳥飼小学校）
 西山 文武（洲本市立鮎原小学校）
 浜田 啓久（南あわじ市立湊小学校）

おわりに

淡路教育事務所長 大石正勝

一昨年10月に開催された「淡路くにうみ夢フォーラム」をきっかけに作成することとなった「あわじ環境未来島副読本」をようやく上梓することができました。

本書は、淡路島の子どもたちに、県と市、地域住民が一緒に取り組んでいる「あわじ環境未来島構想」をよりわかりやすく具体的に伝えたいとの思いから「淡路ふるさと学習副読本」とともに作成を進めてきたものです。ふるさと学習で、淡路島の昔と今の様子を学習し、その延長上で未来島構想を学びつつ、一人一人の子どもが淡路の未来を考えるきっかけにしてほしいと考えています。

執筆は島内の小中学校の先生にお願いしましたが、先生方には、太陽光発電所や五斗長垣内遺跡など、未来島構想を推進するためのプロジェクトが実際に進められている現場を訪れ関係者から話を聞くなど、取材を重ねながら執筆にあたっていただきました。

また、島内の親子でプロジェクトを体験・見学する「あわじ環境未来島セミナー」にも講師として参加し、その際の子どもの意見や感想も副読本の内容に盛り込むなど、読者の子どもたちが身近に感じることができるよう工夫も凝らしていただきました。

豊かで美しい自然環境や守り継がれてきた伝統・文化、興味深い歴史、おいしい食べ物など、淡路島には魅力的な地域資源がたくさんあります。しかし一方では、人口減少や少子高齢化など、今後の淡路島を考える上で大きな課題もあります。子どもたちがこの副読本を通じて、淡路島のいいところをどんどん発見し、さらに住民の一人として、これからの淡路島をどのような地域にしていきたいかなどを考えるきっかけになれば、これほどうれしいことはありません。

本書の作成にあたりましては、「あわじ環境未来島・淡路ふるさと学習副読本作成委員会」委員の皆様をはじめ、学校現場の代表として参加をお願いした「あわじ環境未来島副読本作成部会」の6名の先生方、印刷を担当していただいた(株)淡路印刷様、その他、資料や写真の提供や著作物の使用許諾をしていただいた皆様等、多くの方々にご協力・ご支援をいただきました。ありがとうございました。

未来を担う子どもたちに、もっとこのすてきな淡路島のことを好きになってもらい、淡路島を誇りに思う子、進学や就職で島外に出ても、いつかは戻ってきたいと思う子が育つことを願っています。

あとがき

「みなさん、淡路島の玉ねぎは日本一おいしいって知っていますか。」これは、私が淡路青少年の主張大会で出会った小学校低学年の男の子の言葉です。

私たちは、このように淡路島が大好きで、この島で生まれたことを誇りに思う子どもたちを、もっともっと増やしていきたい。そうした思いから副読本づくりを進めてきました。もちろん、この副読本は、最初の一歩で、十分なものではありません。今後とも教育関係者をはじめ、郷土を大切に思う様々な方々のご支援をいただき、副読本をより良いものにしていきたいと思っています。

あわじ環境未来島・

淡路ふるさと学習副読本作成委員会

委員長 鬼本英太郎

「あわじ環境未来島副読本-みらい-」

2014年(平成26年)3月

発行 兵庫県淡路県民局
兵庫県教育委員会淡路教育事務所
〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋2-4-5
TEL.0799-22-3541(県民局)
TEL.0799-26-3205(教育事務所)

印刷 淡路印刷株式会社